

中2 ボランティア講演会を実施しました

本校では毎年中学2年生の夏休みを「ボランティアを経験する学年」と位置付けています。現在、LHRの時間などを利用し、ボランティアの意義について考え、学びを深めているところです。

5月16日（木）には本校卒業生の徳村奈美さんのお母様である徳村亮子さんのお話を伺いました。奈美さんは16年前に卒業した生徒ですが、在学中の中学2年生の冬に骨肉腫という骨の癌にかかり入院を繰り返しながら手術や抗がん剤治療を続けていましたが、2013年3月に本校を卒業後の翌月に亡くなりました。奈美さん自身が行ったボランティア活動と、闘病中の奈美さんの夢をかなえてくれようと動いてくれた「メイク・ア・ウィッシュ」というボランティア団体の活動の様子、またそのような人との関わりのなかでみられた奈美さんの変化についてお話してくださいました。

以下は生徒による感想です。

中学2年生、今の私達と同年の時に骨肉腫を患った徳村さんのお母様のお話を聞くことができました。今の私にとって「足」の健康は当たり前に感じています。でもそれが当たり前ではないことを深く感じました。自分の病気に気付いた時は「運動も大好きな私がなんで」という気分だったと思います。でもそんな辛い事実に対して大きな治療、また人のためのボランティアを行うという意志は本当にすごいと思います。今回は「プルタブ」を集めて車椅子に換えて、病院へ贈ったことにも感動しました。そんな徳村さんの「大空に飛びたい」という夢を叶える「メイク・ア・ウィッシュ」というボランティア団体の活動に興味を持つことができました。一人の人の夢を叶えるということがとてもかっこよく素晴らしいことだと感じました。自分もそんな活動に協力したい、そんなふうに思える講演でした。



徳村亮子さんは奈美さんの遺志を受け継ぎ、現在も車椅子を寄贈する活動を続けてらっしゃいます。

本日、18台目の車椅子を新たにご寄贈いただきました。

（写真左のブルーの方です。右のチェック柄の方は以前に徳村様よりご寄贈いただいたものです）